

Google Earth 上での衛星観測、シミュレーションデータの可視化

杉山 徹 [1]; 川原 慎太郎 [1]; 荒木 文明 [1]; 高橋 桂子 [2]; 西野 真木 [3]; 網川 秀夫 [4]; 齋藤 義文 [5]; 横田 勝一郎 [5]
[1] JAMSTEC; [2] JAMSTEC; [3] 東工大; [4] 東工大・理・地惑; [5] 宇宙研

Visualization on Google Earth

Tooru Sugiyama[1]; Shintaro Kawahara[1]; Fumiaki Araki[1]; Keiko Takahashi[2]; Masaki N Nishino[3]; Hideo
Tsunakawa[4]; Yoshifumi Saito[5]; Shoichiro Yokota[5]
[1] ESC/JAMSTEC; [2] APL/JAMSTEC; [3] Tokyo Tech; [4] Dept. Earth Planet. Sci., Tokyo TECH; [5] ISAS

<http://www.jamstec.go.jp/esc/extrawing/index.html>

We introduce our visualization project called EXTRAWING.

海洋研究開発機構のアプリケーションラボ・先端情報システム創成理工学プログラムでは、数値シミュレーションや観測で得られた地球科学の知見を、さまざまなバックグラウンドを持つ研究者の間で共有したり、一般社会と双方向で活用できるような、新しい情報コミュニケーションプラットフォームの構築を目指している。その一つとして現在、3次元可視化表現技術をベースにした情報発信プロジェクト・EXTRAWING（エクストラウィング）を展開している。

EXTRAWING は、当初は地球上の気象・気候に関する数値シミュレーションによって得られた流れや温度場等の3次元的な分布とその時間発展の様子を Google Earth 上で表現し一般社会へ向けて発信する Web アプリケーションとして始まった。そして、気象衛星や気象レーダーなど観測データへ対応し、Google Earth 上で異種データを同時に表示し比較分析ツールとしても活用されている。

さらに、Google Earth が、月や火星に対しても対応していることから、S G E P S S の分野においても、月・惑星の観測データを時間軸も含めて4次元的に可視化するデータ可視化ツールとしても、研究面で有効と考え、本講演では、かぐや衛星データを用いた結果を紹介する。本ソフトウェアをハブとしたシミュレーション、観測、可視化の分野横断的な取り組みについても紹介する。